

平成 18 年 11 月 20 日
午後 6 時 30 分～
第 3・4 委員会室

第2回 杉並区教育基本条例等に関する懇談会 次第

1 開 会

2 資料説明

3 意見交換及び質疑

4 次回の日程等

5 閉 会

<配布資料>

資料 7 第 1 回杉並区教育基本条例等に関する懇談会 議事録

資料 8 第 1 回杉並区教育基本条例等に関する懇談会 発言要旨

資料 9 教育立区推進本部プロジェクト検討結果

＜参考資料一覧＞

以下に挙げた資料は、懇談会での議論の参考資料として、現在事務局でご用意できるものの例です。この中で必要なものについては、随時、郵送又は懇談会の際にご用意いたします。このほかにも必要な資料がありましたら、事務局までお知らせください。

【杉並区に関する資料】

1	杉並区内居住の3～5歳児の就園状況（16～18年度） ※幼稚園、保育園等
2	杉並区立小・中学校在籍児童・生徒数推移（13～18年度）
3	平成18年度 杉並区行政評価報告書 【例】▶保育園待機児童数(14～18年度) ▶学習内容を理解している児童・生徒の割合(16～17年度) ▶不登校児童生徒数の推移(13～17年度) ▶いじめや仲間はずれがなく生活していると感じている子どもの割合 ▶区民一人あたりの文化的な生活時間（13～17年度）▶ボランティアに参加している区民の割合（13～17年度）▶高齢者で生きがいを感じている人の割合(13～17年度) 等
4	平成15年度杉並区青少年実態調査報告書(ダイジェスト版) ※5年に1度の調査 ▶子育ての感想 ▶不安・悩み ▶学校教育への要望 ▶身近な地域の居場所 ▶親子の規範意識 ▶朝食・喫煙・飲酒等の状況 ▶学校への感想 ▶いじめの有無 ▶ボランティアへの参加意向 等
5	学習・生活についてのアンケート調査 (17年度杉並区立小・中学校学力調査、意識・実態調査結果報告書より抜粋) ＜調査項目＞ ▶学習時間 ▶読書冊数 ▶学力調査と読書冊数のクロス集計 ▶自己の安定感 ▶学力向上のベース ▶学力向上への態度
6	杉並区の学校サポーター等活動実績推移（14～17年度）
7	すぎなみ地域大学実施状況（18年度）
8	平成17年度主要施策の成果（杉並区） 【例】▶児童等の安全確保 ▶学力・体力の向上 ▶小中一貫教育の推進 ▶地域運営学校の推進 ▶地域との協働 ▶図書館サービスの充実 ▶杉並師範館 など

【国、東京都の資料】

9	東京の教育に関する都民意識調査【報告書(概要版)】平成15年（東京都教育庁） ▶子どもの現状 ▶家庭・学校・地域等の現状
10	「子どもの基本的な生活習慣」（文科省生涯学習政策局） ▶就学前の幼児における就寝時間 ▶朝ごはんを食べないことがある小中学生 ▶毎日朝食をとる子ほど、ペーパーテストの得点が高い傾向 ▶お手伝いをする子ほど道徳観・正義感が身についている傾向

【その他の資料】

11	第3回幼児の生活アンケート ～乳幼児を持つ保護者を対象にした調査に表れた乳幼児の生活と親の状況について（ベネッセ教育研究開発センター）
12	保護者の「学校への満足度」と「家庭の教育力」発揮の現状（ベネッセ教育総研 小林洋）
13	他自治体の類似条例・宣言等一覧
14	条例・宣言の比較表

第1回 杉並区教育基本条例等に関する懇談会 発言要旨 H18.10.27

教育長

杉並区では、「すぎなみ五つ星プラン」という区の行政計画の中で、区の目指す将来像として「人が育ち、人が活きる杉並区」を掲げた。その柱の1つに「地域ぐるみで教育立区」を掲げ、区のすべての施策に教育の視点を取り込んで、教育に支援を惜しまない地域社会の実現を目指している。

教育委員会では、杉並区教育ビジョンを策定し、その推進計画の中で2つの教育の基本的な考え方を示している。1つは、「未来を拓く人を育てる教育」を進めること、2つ目は、「自分たちで自分たちのまちをつくる人々の力を育成」すること。自らの地域のことは、まず自らが考えるという真の住民自治を築くために、一人ひとりが自主的、自立的に考えて行動していくことが大変重要であろうと考えている。

教育基本条例等は、こうした区の教育の基本的理念を明確にし、今後の杉並区の教育を地域ぐるみで推進するため、いわば教育の地域分権を推進していくよりどころとして、制定を目指すもの。制定に当たり、各層の意見を広く取り入れ論議を進めるために、学識経験者及び区民からなる懇談会を設置した。委員の皆様方には活発にご論議いただき、基本条例等の骨子となるご意見を賜りたい。

会長

- ・杉並区の教育基本条例は、杉並区にこだわったものがつくれるといい。
- ・誰かが悪いとか犯人だというような議論よりは、子育てや子どもの教育にかかわることが楽しく、自分自身が学ぶことが楽しく元気になるような議論にしたい。
- ・子どもに限らず大人も含めた、学ぶ、教育、育てるにつなげる。
- ・自分が育つということを区民全体、区全体で保障し支援し一緒に楽しめる。
- ・子ども、親、教師も大変な時代であるが、お互いに協力し合い楽しくなる教育が行われる。
- ・客観的な資料や科学的なデータに基づいた議論をして区民の皆さんに納得していただく。

副会長

- ・今の子どもたちは、基本的な生活習慣が欠如し、コミュニケーションの取り方も下手で、自制心や規範意識も低くなっている。
- ・地域で子どもたちがいろいろな人と関わる機会が減り、地域の中で子どもが育たなくなった。
- ・幼児教育の果たす役割が、安全や基本的な生活習慣の習得になってきている。
- ・人の一生の中の一番大事な基礎となる部分(根っこ)を育てることや、低下している家庭の教育力を支援していくことが、幼児教育の大きな役割。
- ・認定子ども園が開設され、保育所、幼稚園、認定子ども園と選択肢が広がったが、保育の質の低下が危惧される。専門性やレベルの高い保育教師による質の高い保育の展開も必要。
- ・教育に支援を惜しまない地域社会をどうつくるのかを議論することがこの会の趣旨。

委員

- ・すべての軸は「地域ぐるみで進めるために」に据えておかないと、議論が拡散してしまう。
- ・未来を拓く人を育てることや自分たちで自分たちのまちをつくる人々を育てることは重要。
- ・これまで生きてきた過去の経験の延長線上で考えてしまうので、白紙で議論を展開させたい。
- ・杉並の人づくりは杉並の個性、地域特性が出るが、基本的な考え方は普遍的なものであり、整理して考える必要がある。
- ・議論が抽象論ばかりになってしまう可能性がある。具体的な施策も意識する必要がある。

委員

- ・杉並区が目指していく教育(子どもをどう育てていくのか、どういう子どもにしていきたいのか、子どものあるべき姿)について、教員一人ひとりの認識、理解が欠けている。
- ・教育の一番大事な基本は、やはり人づくり。
- ・今住んでいる杉並区を自分たちの心の育つ土壌、基盤、環境にするために愛郷心を育てていかななくてはならない。
- ・現場の教員の資質、能力を高めていく必要がある。
- ・杉並の子どもが立派な大人になり杉並区、ひいては東京都、日本を背負っていけるようにならなければならないため、地域や学校での子どもや大人の実態から、今抱えている問題を改善していく。

委員

- ・子どもの基礎学力の低下、学力向上が課題という議論があるが、一方で学力の剥落、はげ落ちという問題も大変重要。
- ・かつて必要であったことが、これからどうなるかわからないところが教育の難しさ。
- ・政策評価や学校評価で短期的に成果を見ようとするのも大事ではあるが、同時に、子どもたちが今学んでいることを、実は大人たちはあまり使っていないということをどう理解したらいいか非常に興味深いテーマ。
- ・「よくわかる授業」と言う先生がいるが、それは一面に過ぎず、むしろわからないことがわかるということがすごく大事。
- ・教育という言葉で、幼児から高齢者まで、広く世代間で捉えると同時に、学力とか、人のあり方も話の中心となる。
- ・いろいろな経験を積むと自身が変わり、新しい気持ちで世の中を見ることができると、これも生涯学習の一種。

委員

- ・家庭での子どもに対する教育、しつけ等ができていないと、集団に入っても協調性がなく友達とぶつかる。
- ・少子化の時代で、自分の子どもについて気がつかなくてもいいことまで気がついてしまう。
- ・子育てについて、相談する人や場が減っており、親が悩みをかかえている。
- ・基本条例では、子どもだけではなく、保護者に対していろいろな指導ができるようにしたい。

委員

- ・昔はしつけを家庭でやっていた。学校は勉強を教わるだけ。今はしつけも学校ですのような雰囲気があるが、その辺から考え直さないといけない。
- ・親が子どもを見なければいけない。親は学校にお任せ、幼稚園にお任せでは、幾らここで頑張っても基本的にだめになってしまう。

委員

- ・知識は学校で学ぶけれども、しつけは家庭でするもの。少なくとも親は子どもと、もっと接触する機会をもつことが必要。
- ・家庭と社会とのつながりをもっと大事にしていく必要がある。
- ・金があれば何でもできるという風潮をやめていかなければならない。
- ・基本的なこと、良いことと悪いことを教えるのは、家庭のしつけ。
- ・子どもの教育だけでなく、大人の教育、社会教育まで含めて考えるべき。

委員

- ・「地域ぐるみで教育立区」とは、親がしっかりしろということと受けとめている。
- ・ゆとり教育のひずみなのか、勉強する時間が少ないと危惧している。
- ・家庭の力と学校の力を合わせて子どもを育てていきたい。
- ・親は子どもと向き合っているが、自分だけで悩んでいる親も多いのでは。
- ・保護者(PTA)、地域で行っているそれぞれの活動を学び合うことで、社会が変わっていき子どもたちにもよい影響を及ぼしていく。

委員

- ・壊れたコミュニケーション(親と教員、親と近所)をどう再構築していくか。
- ・親がコミュニケーションをとる訓練をしていく中で、親と子のコミュニケーションがとれていく。
- ・自分の子どものことしか考えない保護者が多くなり、お互いさまとか、周りやほかの子どもと分け合うということが減ってきている。
- ・小・中学校の現場や先生方はどういう状態なのか、テレビやマスコミで言われていることに惑わされることなく現実を見ていきたい。
- ・地域社会というものが崩壊しつつある現状において、「また地域」ということが地域からは出てきているので、実態を見て有効な提言をしたい。

委員

- ・学校、家庭、地域の中で、一番落ちている地域の教育力。
- ・地域内のコミュニケーションがとれないため、コミュニティ形成がなされない。
- ・教育力の面では、地域、家庭、学校は、一つひとつ独立したものではなく連携をとらなければいけない。
- ・教職における聖職論は消えたが、聖域論は残っている。学校に踏み込めない。
- ・コミュニティ形成には、仕掛けが必要で、そのためには行政の支援が必要。
- ・子どもの規範意識は学校で教えるものではなく、社会が求める1つの姿。
- ・「教育」という言葉を使って、地域、家庭、学校、社会の課題は洗い出される。

委員

- ・子どもは日々変わるもので、教育というのは長い目で見ていく必要がある。
- ・目に見えないところ(生まれてきてよかった、生きてきてよかった、愛されている、うれしい、幸せ)を大事にし、しっかり感じられる子育て、子育ちをさせたい。
- ・地域、家庭、学校、福祉の面から垣根を乗り越えて、しっかり話し合いたい。

委員

- ・子どもが最初に参加する社会は家庭。そこでいろいろな体験をすることで、子どもの心は育っていく。
- ・家庭から出たときは、人と人との関わりで心は育っていく。
- ・今の子は、親が先回りするから家庭生活の基本的な体験ができていない。
- ・「自分の子どもが好きか、子どもはあなたを好きか」自信を持って言える家庭であればいろいろなことは起きない。
- ・人づくりは心育てである。

教育立区推進本部プロジェクト検討結果

名称	プロジェクト設置のねらい	プロジェクトの推進方針
道徳推進	<p>今日、倫理観や規範意識に欠け、公共の場での基本的マナーを守れない人が増えている。また、個を重要視するあまり社会の一員として、社会に貢献する意識が希薄になっている。杉並独自の「人の踏み行うべき道」を明らかにするとともに道徳読本の推進を図る。</p>	<p>今日、家庭・地域の教育力の低下とともに、子どもたちの倫理観・規範意識も低下している。そこで、「すぎなみしあわせ文庫編纂委員会」が作成する「すぎなみしあわせ文庫」(16年度「ココロマメ」)を活用し、子どもたちに命の大切さ、人として生まれてきたことの素晴らしさ、人に感謝し、人を思いやることの大切さを知ってもらうため、学校の道徳事業での活用を図るとともに、家庭や地域での、「すぎなみしあわせ文庫」の普及・活用を推進する。</p>
食育推進	<p>豊かな家族関係を築き、子どもたちの人間性を育むためには、「食」が重要である。いま、改めて、食育を生きるうえでの基本であり、徳育、知育、体育の基礎となるべきものと位置付け、食を通じて子どもたちの心身の健全育成を図るとともに、健全な食生活を実践することができる人間を育てる食育を推進する。</p>	<p>食を通じて子どもの心身の健全育成を目指した健康な生活を実践できる人を育てるため、次の考え方のもと食育を推進する。(視点・目標は別紙1)</p> <p>①「食」は、子どもたちが豊かな人間性を育み、生きる力を身に付けていくうえでの礎である。食育を「教育立区すぎなみ」がめざす「人づくり」において、徳育・知育・体育の基礎と位置付けて推進する。</p> <p>②食育の対象は、「教育立区すぎなみ」がめざす「人づくり」の対象である子どもたちとともに、子どもたちの教育に大きな影響をもつ保護者や地域への食育も視野に入れて推進する。</p> <p>③食育は、「なにを」「どれだけ」食べるかということとともに、「いつ」「どこで」「誰と」「どのように」食べるかといった、人との関わりにも視点をおいて推進する。</p> <p>④食育は、区長部局と教育委員会が共通の目標をもって区全体として推進する。また、食育の環境づくりのために、行政だけでなく、NPOや企業などの民間活力を活かしながら地域ぐるみで推進する。</p>
学校力向上	<p>杉並区が目指す「育てたい人間像」の具体化、学力の向上を図るため、教育委員会の支援する力、学校自らがもつ力、地域がもつ力を総称して学校力とし、その向上策を区民との共通認識の下に進める。</p>	<p>地域のニーズに応え、特色ある教育、開かれた学校づくりを行い、義務教育9年間で必要な学力・体力、社会の一員として生きていく資質を身につけさせるためには、「学校が自ら持つ力」「地域の支援する力」「教育委員会の支援する力」の三つの力を学校力とし、この力の向上により、自立と責任ある学校をつくっていくことが必要である。</p> <p>この目的を達成するため、次に掲げる「めざすべき学校像」を目標に、学校・地域・教育委員会の取り組みを推進していく。</p> <p>(1) めざすべき学校像(自立と責任のある学校をつくり未来を拓く人を育てる)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎ 一律的な学校から多様で特色ある学校へ ◎ 受身的・画一的な運営から自律した経営へ ◎ 区立学校から地域立学校へ <p>(2) めざすべき学校に必要とされる力(学校の総合力)</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 経営力(自立した学校経営や特色ある教育を推進する、管理職のリーダーシップ及び組織の力) ② 授業力・指導力(児童生徒の学力、体力を向上させる教師の授業力、社会人としての資質や生きる力を育てる指導力) ③ 協働力(地域に根ざした学校をつくるため、地域の力を活用し、地域と協働していく力)

名称	プロジェクト設置のねらい	プロジェクトの推進方針
就学 前 教 育	<p>豊かな幼児教育は、人間形成の基礎として極めて重要であることを踏まえ、就学前教育を充実させ、学齢期教育への円滑な移行を進める推進策を策定する。</p>	<p>育てたい人間像(幼児版)と就学前教育プログラムは、その後約9割の子どもたちが区立小学校に就学し「育てたい人間像」を目標とした教育を受ける中で、就学前・就学後の教育に一貫性をもたせ、相互の教育内容をより深まりのあるものにするために設定し実施するものである。就学前教育の推進方針は、以下のとおりとする。(別紙2:育てたい人間像(幼児版))</p> <ol style="list-style-type: none"> ①就学前教育は、教育立区における「人づくり」の基礎・基本を培う重要な教育であるとの認識のもとで推進する。 ②就学前教育は、0歳から就学前までの期間を範囲として推進する。 ③就学前教育は、幼稚園・保育園といった就学前の受入れ施設での教育のみならず、家庭教育も含めて、総合的に推進する。 ④就学前教育は、子育て支援の充実と表裏一体をなして推進する。 ⑤就学前教育は、小学校教育への円滑な移行を視野に入れて推進する。
地 域 貢 献	<p>今後、区政の協働の推進に併せ、社会教育分野において生涯教育と地域貢献活動をつなげる仕組みを構築し、区民の地域貢献活動を推進する。</p>	<p>地域貢献活動の主人公は区民である。地域貢献活動とは地域に生活する人々が、自らの抱えるさまざまな生活課題を自ら発見し、目的意識を持って解決するための活動である。区民がそうした活動に参加できるよう、区は以下の三点を基本的な考え方として環境の整備を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 地域での学習活動と貢献活動とは表裏一体であるため、区民の生活場面の随所に‘学び合い’の場を設け、大人の自己変革を支えるしくみをつくり、地域の教育力向上を推進する。 ② 学習成果や地域貢献活動が、他者に好影響を与えているという「手ごたえ」を感じられる‘地域範囲’として、区民にとってもっとも身近な地域である「学校区」を単位とした施策を推進する。 ③ 住んでいる地域に目を向け活動の場を求める区民が、気軽に参画し、相互協力の関係をつくり、学習活動と貢献活動の双方が循環しながら、自ら地域づくりの主体となっていける様々な‘しくみ’づくりを推進する。 <p>【目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 子育てや家庭教育を支援する地域の教育力を高める。 ② 地域に埋もれている人材を発掘し、育成する。 ③ 地域での協働を進めるしくみ・ネットワークを整備する。 ④ 学校を地域の拠点として活用できる施設にしていく。 <p>【視点】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 誰もが気軽に参加できること。 ② 一人一人の能力が活かされること。 ③ 区民が相互に支えあえること。 ④ 学習活動と貢献活動が循環し、より深まっていくこと。

※各 PT の具体的推進施策は、省略する。